



書名：『南アジア遊行一九六九』（みなみあじあゆぎょういちきゅうろくきゅう）
編者：恵原義之
発行：新風社
価格：1,050円(税込み)

◇内容

昭和44年(1969年)6月から9月にかけて23歳の作者は東南アジアから南アジアを放浪した。これはその際の、帰路アフガンのバクトリアからインドのカルカッタまでの約1ヵ月の記録である。当時は経済成長期に入ったとはいえ、わが国は外貨持ち出し規制が厳しく、年間の出国者も万人台であった。この地域を旅する日本人も欧米の若者の数も多くはなく、彼らは仲間意識を持って行動を共にするのであった。

作者はこの時期この地域に国際政治が色濃く影を落としているのを目撃する。これについて途上で出会う各国の若者と意見を交わす。また宗教者から近代文明への批評を聞かされる。3ヵ月の旅が作者の考えと行動に影響をもたらす過程を描く。4部より成り、各部で取り上げる行程は次の通りである。

◇目次紹介

1. ヒンドークシュを越えて【アフガニスタン編 :バルク/マザリシャリフ/クンドゥズ/カブール】
2. カブールから東方へ【パキタン編 :カブール/ペシャワール/ラホール】
3. デリーに集う人々【インド編 :デリー】
4. ボンベイ・カルカッタ鉄道【インド編-2 :オーランガバード/ボンベイ/カルカッタ】

